

70周年記念表彰

受賞者の声

「ひと」のつながりに支えられた中・四小体連

前中・四国小学校体育連盟 副会長 愛媛県

中川 祐二



中・四国小学校体育連盟（以下、中・四小体連）70周年記念、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げますとともに、これまで様々な形で中・四小体連を支えていただいたすべての皆様に感謝申し上げます。敬意を表します。また、この度の記念式典で、過分なる表彰にあずかり、身に余る光栄に存じます。

私が直接中・四小体連に関わるようになったのは平成10年で、それ以降何らかの形で関わりを継続させていただいております。教員生活が37年ですので、その2/3近くもの間、中・四小体連に関わり続けてきたこととなります。『わたしたちの体育』を編集する研修部員としての役割に始まり、その後理事長や常務理事、副会長を経験させていただきました。中・四小体連体育研究大会にも毎年関わってまいりました。特に、松山市立双葉小学校を会場とする愛媛大会（平成18年度）において、理事長として大勢の方々に支えていただきながら長期にわたって準備を積み重ね大会を運営したこと、中でも大会開催4年前に故高橋健夫先生に直接お電話でご講演の依頼をし、快諾していただいたことが今でも忘れられません。

中・四小体連の諸活動や研究大会では、多くの学びの場を経験してきました。『わたしたちの体育』の執筆・編集を核として、新しい学校体育の流れや内容について先取りした理論研究をしたり、切磋琢磨する議論を重ねつつ執筆原稿を書き直したりする経験は、自身の体育科研究のみならず、学校運営の在り方を方向付ける切り口にもなっていたように思います。そして、何と云っても体育科研究に真摯に携わる中・四国各県の「ひと」のつながりにおいて、深まりや広がりを得ることができました。愛媛県内の小体連でも同様の思いを感じてはいましたが、中・四国という一回り大きな世界での「ひと」のつながりを体感することができたことは、私にとって生涯の財産と言っても過言ではありません。

また、(株)文教社の皆さんからも、多くのことを学ばせていただきました。現在務めているところでは、広報誌や学習資料等の編集出版に関する業務がありますが、中・四小体連に深く関わっていた間に、特に著作権に関する専門的な内容や方法に関して教えていただいたことを、今の業務に活かしています。これもまた、「ひと」とのつながりがもたらしてくれた賜物であると感謝しています。

私事で恐縮ですが、教員を退職して3年目になる私は、体育科の目標にも掲げられている「豊かなスポーツライフの実現」を目指し続けています。その一つとして、運動・スポーツを「支える」部分に関わっています。昨年度より地元松山市のスポーツ少年団本部長を、本年度より地元の体育協会会長を拝命し、現職時には携わることができなかった身近な部分から少しでも地域貢献ができればと努めているところです。中・四小体連で培った「ひと」のつながりの在り方を活かし、現在は、中学校の部活動地域展開に伴う受け皿の一環として、それぞれの組織で対応できることを模索、協議していこうとしています。狭い地域とは言え、様々な実態が混在する中、難航は覚悟のうえで組織的な対応を進めていければと思っています。

中・四小体連は、子どもたちに「豊かなスポーツライフ」の実現を目指す学びの場を提供し、「ひと」のつながりや広がり貢献する偉大な組織です。現在スーパーバイザーを務めていただいている日野克博先生のご指導のもと、中・四小体連が80周年…100周年に向け、更なる進化・発展を遂げられますよう心よりお祈り申し上げます。

中・四国小学校体育連盟創立70周年を祝して

元中・四国小学校体育連盟 会長 島根県

作野 宏喜



中・四国小学校体育連盟が創立70周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。私がこの役職に就き直接連盟と関わったのはわずかな期間でしたが、長きにわたり各県の先生方が体育学習の充実・発展を目指して真摯にご尽力されてきたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

平成28年開催の第54回中・四国小学校体育研究大会（島根大会）が今でも強く印象に残っています。巡り合わせとは言え、この年は島根県小体連の結成50周年にあたる節目の年でもあり、大会運営委員をはじめ、関係された先生方の大会開催への熱い意気込みをひしひしと感じました。しかし、突然の地震発生により本大会を中止せざるを得なくなりました。そのときの複雑な心境は今でも忘れられません。そんな私に、講演講師をお願いしていた成田十次郎先生をはじめ来賓の皆様からかけていただいた温かい言葉は心強い励ましになりました。

当時、最高顧問であった成田先生は、これまで中・四国小学校体育連盟が積み重ねて来た実践は「世界に誇るべき宝」であり、この組織は「他に例を見ない組織である」と機会ある度に語っておられました。私自身も中・四国体育連盟の実践は、体育に携わる先生方がより良い体育学習を進めていくための拠り所となる貴重なものだと思います。そして、その取り組みは、運動が好きな子どもを育むとともに子どもたちの健康と体力の向上という大きな成果を上げたと確信しています。

中・四国小学校体育連盟がこれからも益々発展し、中・四国体育の充実に更なる貢献をされますことを心から祈念して、お祝いの言葉とします。

中・四国は一つ ― 子どもたちの健康・体力づくりのために ―

前中・四国小学校体育連盟 顧問 香川県

横山 喜一郎



この度は、表彰状及び記念品を賜り、心から厚くお礼申しあげます。

振り返ってみますと、昭和43年（1968年）から「体育人」として学校現場・教育行政等の立場から、子どもたちの心身の健全な発達・成長を願って職務に邁進して参りました。

当初、出会ったのが高田典衛先生で、先生の著書「楽しさの四原則（動く楽しさ・集う楽しさ・解る楽しさ・伸びる楽しさ）」は、体育の授業づくりに一番影響を受けた理論でした。

その後、『わたしたちの体育』・『わたしたちの保健』の企画・執筆・編集に関わらせていただいたことは大変名誉なことでした。現在、中・四国小体連の先生方の総力を結集して編集を重ねておられる準教科書『わたしたちの体育』ですので、『わたしたちの保健』とともに、これからも中・四国の各校での採択・活用に大きな期待を寄せています。

中・四国小体連の参与として3年間、顧問として9年間、会長・副会長を含めると15年間役員をさせていただきました。その間、各県代表の先生方とともに活動できたことを大変光栄に思っており、今まで多方面にわたってご指導をいただいた顧問・参与・役員・関係の先生方に心から深く感謝いたします。

これからも「中・四国は一つ」の合言葉のもと、中・四国小学校体育連盟のさらなるご発展を心からお祈りいたしております。

中・四国小学校体育連盟の80周年に向けて

元中・四国小学校体育連盟 副会長 岡山県

小川 泰永



中・四国小学校体育連盟創立70周年、誠におめでとうございます。心からお喜びを申し上げます。そして、これまで本連盟を支え続けてこられました多くの諸先輩や今現在も活躍している後輩たちに敬意と感謝の気持ちでいっぱいです。

私は、令和2・3年と岡山県小学校体育連盟の会長を拝命し、同時に中・四国小学校体育連盟の副会長として皆様にお世話になりました。時はコロナ禍真っただ中です。当時、教育現場は新型コロナウイルス感染症という未知の疫病への対応が求められ、度重なる臨時休校を経験し、これまでの当たり前が通用しなくなる未曾有の事態に追い込まれていました。当然、体育・スポーツ活動にも制約が生じ、これまで児童の体育授業の改善に力を注いでこられた先生方の取り組みもストップせざるを得ない状況となりました。私は、県小学校体育連盟の会長として、働き方改革の声が高まるご時世を配慮し、リモートの会議を増やしていきました。また、県内での水泳・陸上の記録会が軒並み中止となる中、体育の授業改善への取り組みを継続させる必要があると考え、予算を再構築し、県内各支部の通常の体育授業の支援等に予算が回るように工夫したことを今でも鮮明に覚えています。更に、中・四国各県の会長との人脈も私にとっては宝物となりました。コロナ禍での他県の取り組みを各県会長にお聞きする中でそれぞれの工夫を参考にさせていただきました。校長としての苦労も情報交換ができ、会長としてだけでなく、校長としても成長させていただいたと思っております。

中・四国小学校体育連盟は、県によって体育学習の捉え方に微妙な違いがあります。岡山大学の学生時代、團教授、大橋教授、池田教授、村田教授等に「特性論」「めあて学習」等のキーワードで体育学習を学んだ私は当初不安を感じていましたが、時を経るにつれて、それぞれの県の特徴を互いの県が尊重していることに良さがあると認識も変わってきました。次期学習指導要領は「2030年以降の学校教育の姿を描く」などと言われています。これから向かうであろう「Society5.0」の時代に、どのような体育授業が求められ、各県の小学校体育連盟の実践はどのように変化していくのでしょうか。楽しみではありません。互いの県の実践を尊重し、その中で体育への思いを語り、時にぶつかり、そういった刺激の中で中・四国小学校体育連盟が創立80周年に向かってさらに成長してほしいと願っています。

終わりになりますが、様々な場面で小学校現場のわがまを聞き入れ、そして、ご支援を賜りました田中社長をはじめとする文教社の皆様に感謝申し上げますとともに、中・四国小学校体育連盟のこれからのますますの発展を祈念いたしております。

『わたしたちの体育』が結ぶ絆に感謝

元中・四国小学校体育連盟 専門委員 徳島県

二宮 あゆみ



中・四国小学校体育連盟が創立70周年を迎えられましたことに心よりお慶び申し上げます。

私は、平成20年から7年間、広報・組織委員として、中・四国小学校体育連盟の仲間入りをさせていただきました。また、平成22年の『わたしたちの体育』全面改訂に伴い、『表現運動 CD』の編集に携わる経験もさせていただきました。中・四国の先生方とともに体育が好きな子どもを育てるため、話し合い、研究してきたことは、私にとって貴重な財産であります。

徳島県では、『わたしたちの体育』のモニター制を長年継続して行っています。各学年、領域ごとに県内の120校以上の小学校教員から『わたしたちの体育』を使っでの感想等を送っていただいております。子どもが手に取って友達と相談したり、振り返ったりしていること、教員がデジタルコンテンツを生かしながら授業のイメージづくりや構想に役立っていること、『表現運動 CD』のバリエーションが多く、豊かな表現活動につながっていることなど、毎年、貴重なご意見をいただいております。私が委員をしていた頃には、地方新聞の投書欄に、保護者の方から『わたしたちの体育』に毎時間、担任の先生がコメントを書いていることに感激しているという投書を見つけ、とてもうれしい気持ちになったことを思い出します。

諸先輩方から築かれた70年にわたる努力と絆、研究により、体育科学習のあり方は、今後、さらに充実・発展し、体育が大好きな中・四国の子どもたちが育っていくことを願っております。

中・四国小学校体育連盟への感謝

元中・四国小学校体育連盟 理事長 広島県

大田 直樹



中・四国小学校体育連盟創立70周年を迎えられ、心からお喜び申し上げます。また、6月には、70周年記念表彰を賜り、誠にありがとうございました。伝統ある中・四国小学校体育連盟に少しの時間ですが、関わらせていただいたことに感謝申し上げます。

『わたしたちの体育』全面改訂特別委員会では、学習指導要領（学習指導要領解説編）を反映し、現場の先生方に使いやすい紙面構成や内容、在り方について、各県の先生方と議論を重ねました。各県がこれまで大切にされてきた体育科授業づくりの考え方やこれまでの研究成果を限られた紙面の中に表したうえで互いの意見をぶつけ合い、削り合い、紙面1ページ1ページが作られていきました。全面改訂特別委員会が行われるたびに、自身の勉強不足を痛感し、同時に負けられない、もっと勉強しなければというモチベーション向上につながりました。全面改訂特別委員会では、貴重な経験をさせていただいたことに感謝しかありません。

綿密会議（全面改訂特別委員会で議論した各紙面の最終校正等）の担当県として連日遅くまで検討会議（計100回以上）を行いました。各県の想いがつまった1ページ1ページの内容（体の向きや手足の角度、目線、分解図の場面、吹き出しの内容、学習指導要領との整合性、指導経験の浅い先生方でもイメージしやすい紙面構成など）について、また、学年の系統性や動きの系統性も意識しながら丁寧に検討していきました。検討の際には、学習指導要領解説編を何度も読み返し確認したり、各県の想いがつまった紙面をどのように、どの程度変更していくか悩みながら時には各県の先生方に連絡を取ったりしながら進めました。当時は、非常に大変な作業でしたが（肉体的にも精神的にも）、今振り返ってみると、自身の体育科教育への見識や実践力向上につながったのだと痛感しております。

令和2年、第58回中・四国小学校体育研究大会（ひろしま大会）は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、これまでの大会史上初めてとなる誌上開催方式で行いました。会場校である広島市立幟町小学校及び広島市立観音小学校の2校は、大会主題のもとそれまで取り組んできた研究成果による授業公開を取りやめ、大会要項（誌上）にて研究の成果を発表することになりました。また、広島県内及び中・四国各県から体育科の各領域における研究実践も誌上による発表という形となりました。誌上開催に至るまで、中・四国小学校体育連盟の最高顧問成田十次郎先生をはじめ顧問・参与様、各県会長様などたくさんの方々からご助言やご示唆、激励を賜ったことを昨日のように思い出します。この未曾有の出来事を通して、それまで当たり前だったことが当たり前でなくなり、体育科の授業においても密集や接触を避ける観点から教材の工夫、ICT機器の活用など児童の運動の理解を一層深めるための様々な工夫・改善が一気に進んだように思います。

終わりに、中・四国小学校体育連盟という組織（受け皿）があったからこそ、素晴らしい皆様と出会い、刺激を受け、今日の自分があります。今後益々、素晴らしい組織となり、体育科学習の発展に寄与されることを祈念いたします。

「70周年記念表彰受賞者の声」

元中・四国小学校体育連盟 専門委員 高知県

田所 潤子



中・四国小学校体育連盟創立70周年という記念すべき節目に当たり、身に余る賞を賜り、深く感謝申し上げます。光栄に存じますとともに、この賞に込められた重責を感じております。

私が、かつて12年間勤務しておりました高知市立横浜小学校は、第32回・第41回・第50回の研究大会において、3度会場校となる体育研究の伝統校です。そのような学びの土壤がある学校で、校内外の諸先輩方にご指導を仰ぎながら実践を積み重ね、子どもたちの姿から多くを学ばせていただいた経験は、私の大きな財産であり、教育に対する姿勢や考え方の礎となっています。

併せて、学習指導要領改訂に伴う『わたしたちの体育』児童書及び、指導書の執筆や編集に携わる中で、県内外の先生方とともに研究を深め合えた日々は、今も心に残る貴重な時間です。在籍校の校務を離れ、高松で関係の方々とは夜遅くまで語り合った時間も、私の教育人生を豊かにしてくれました。

門田宣雄先生から「中・四国全ての子どもたちによい体育の授業を届けたい」という創設当時の熱い思いを受け継ぎ、成田十次郎先生から「100周年に向かって優れた体育授業を中・四国の9県全てに普及・拡大させる為に、準教科書を授業にどう活かすか」という宿題をいただいています。

現在の学校現場は多くの課題を抱えています。だからこそ、体育授業の重要性と可能性を実感することがあります。これからも子どもたちの姿から学び続け、「中・四国は一つ」の合言葉のもと本連盟益々の発展の為に、微力ながら貢献していきたいと考えています。

人と人との繋がり

中・四国小学校体育連盟 常務理事 山口県

佐々木 智哉



中・四国小学校体育連盟創立70周年、心よりお祝い申し上げます。また、この度は、70周年記念表彰を賜りましたこと、深く感謝申し上げます。長きにわたり、中・四国の小学校体育を支え、発展へと導いてこられた貴連盟の歩みに、あらためて敬意を表するとともに、その一端に関わらせていただけたことを大変ありがたく、誇りに思います。

私の中・四国小学校体育連盟の活動に参加させていただくようになったのは、コロナの猛威が治まってきた令和4年度のことでした。当時は、第60回中・四国小学校研究大会・山口大会の開催準備が本格化する中で、常務理事という大役を仰せつかり、さらに理事長という重責を担うこととなりました。正直なところ、それまでの私は、連盟の運営について十分な知識をもっておらず、初めのうちは戸惑いと不安の連続でした。周囲の皆様には多くのご迷惑をおかけし、支えていただくことばかりだったと振り返っております。しかし、そんな未熟な私に対しても、実に温かく、寛容に接してくださいました。分からないことは丁寧にご指導くださり、事務的な連絡のやりとりの中にも、常に思いやりと励ましの言葉が込められておりました。会議の場ではもちろん、メールや電話など日常的な連絡の中でも、皆様の人柄と優しさに何度も心を支えられました。おかげさまで、無事に理事長としての任期を全うすることができ、山口大会も多くの方々の協力のもと、盛会のうちに終了することができました。

大会終了後には、多くのねぎらいの言葉をいただきました。その一言一言が、これまでの苦労をねぎらっていただけたように感じ、大変ありがたく、心に染み入るものでした。このような他県の人と人との繋がりを実感できる機会は、日々の教育現場ではなかなか得難く、私にとって貴重な財産となっています。

中・四国小学校体育連盟が「中・四国地域の小学校体育の発展」「質の高い体育教育の実現」に寄与していることは周知の事実です。実際に役員として内部から関わる中で強く感じたのは、地域と立場を超えて人と人が支え合い、学び合いながら目的に向かって進む「繋がり」の力です。体育という共通項のもとに、多様な経験や価値観をもつ人が繋がり、互いに刺激を受け合い、励まし合う。そのような温かく力強い組織文化が、中・四国小学校体育連盟には根付いています。このような貴重な繋がりが、今後も広がり続けていくことを願っています。これまでの繋がりをさらに深めるとともに、新たな仲間との出会いを通じて、新しい繋がりが生まれ、私が感じた温もりやありがたさを、新しい仲間にも感じてもらえる場になることを期待しております。

結びに、中・四国小学校体育連盟が、今後ますます発展し、小学校体育のさらなる充実と、子どもたちの健やかな成長に大きく貢献されることを心より祈念申し上げます。

中・四国小体連での貴重な経験

元中・四国小学校体育連盟 理事長 鳥取県

夏目 貴史



わたしは、平成27年度・28年度は鳥取県選出の編集・刊行委員として、平成29年度から令和5年度にかけては鳥取県常務理事として、計9年間にわたり中・四国小体連の活動に携わってきました。この間には、準教科書の大規模な改訂や保健教科書の検定、新型コロナウイルス感染症による活動制限など、数々の重要な出来事を経験しました。

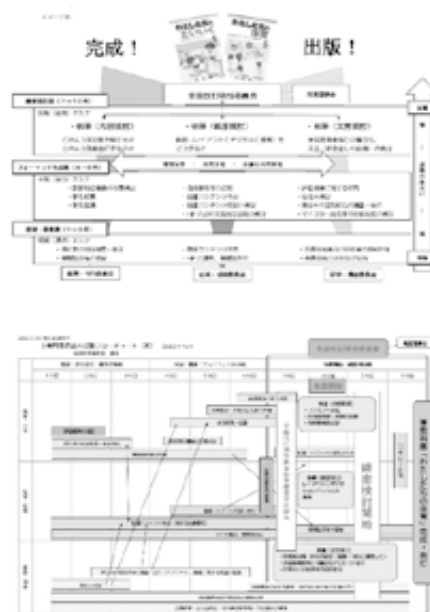
準教科書の大改訂では、前回改訂の経験者が少なく、活動の初期段階でスケジュール等の見通しを立てるのが難しい中、丁寧に進めてはいましたがやはり時間もかかり、苦労が絶えませんでした。また、鳥取県原稿作成にあたっては、各郡市研究部長に協力していただき、原稿の編集や高松での会議資料の持参など、県内での工夫を重ねたことが印象に残っています。

保健教科書の改訂では、鳥取県が健康教育研究会の理事長県となり、各県選出の先生方と議論を重ねました。鳥取県が綿密を担当することとなり、勤務終了後や休日に集まって、各県から提出された原稿を入念に検討する会議も行いました。文部科学省での教科書検定意見通知を受け取った際の緊張感も鮮烈な記憶です。

なかでも在任中で最も印象深かったのは、新型コロナウイルス感染症に伴う活動制限下での取り組みでした。今後の活動の方向性について、顧問・参与の先生方、各県の常務理事、文教社の皆さんとともに議論を重ねたことは、非常に貴重な経験でした。令和2年度には中・四国9県のうち7県で新たな常務理事が就任し、活動制限前の状況を知るのは2名のみという状況でした。その中で、これまで当然とされてきた会議や活動の意義をあらためて問い直す必要が生じました。コロナ禍で多くの活動が制限・中止となったからこそ、中・四国小体連の歴史を顧問・参与の先生方から学びつつ、規約の見直しや活動の整理を進めました。

加えて、従来のやり方をただ元に戻すのではなく、新しい方法を模索し、より良い組織活動を目指して常務理事の先生方と議論を重ねてきました。その成果の一つが、総会資料にまとめられた「準教科書『わたしたちの体育』の編集・刊行に向けた3専門委員会の連携活動(案)」、「3専門委員会の活動フローチャート(案)」です。これらの案は今後の中・四国小体連の活動の基礎となるものであり、今後も修正を重ねながら、より良いものへと発展させていきたいと考えています。案は3専門委員会の総力で取り組むために作成され、準教科書『わたしたちの体育』の編集・刊行方法を明示しています。次回の準教科書は、これらの案に基づき、組織一丸となって作成されるものになるでしょう。多くの先生方のご協力を仰ぎながら、完成されることを楽しみにしています。

わたしは鳥取県選出の役員として活動してきましたが、中・四国小体連の会議を通じて多くの先生方と出会い、その経験は現場でも大いに生かされました。体育科を通して大きく成長できたのも、中・四国小体連のおかげです。今後も、中・四国小体連がさらに発展し、体育好きな子どもたちが増え、素晴らしい準教科書が作られることを期待しています。



「わたしはこのように授業をしました！」
～『わたしたちの体育』・『表現運動CD』の活用実践事例集～

表現する楽しさに没頭する子どもを目指して

「みんなでへんしんのじゅつ！」 1年 表現リズム遊び

『わたしたちのたいいく』 P.12～15

香川大学教育学部附属高松小学校 教諭 西原 昂志

1 はじめに

表現リズム遊びは、身近な題材の特徴を捉えてそのものになりきって全身の動きで表現することが楽しい運動である。しかし、ただ子どもの自由な発想に任せて授業を展開してしまうと、動きを想像することが苦手な子どもにとっては、十分に運動の楽しさを味わうことができない。

そこで、本単元では「忍者になって敵に見つからないようにお城から脱出する」という世界観の中で、山や川、海など、さまざまな状況を教師から提示し、状況に応じた生き物に変身するという活動を展開した。そのとき、『わたしたちのたいいく』の「かつどう①」にある生き物を見ることで、自分のイメージした生き物になりきるためにどんな動きをすればよいのか、見通しをもって活動できるようにした。子どもたちは、第1時を終えた時点で「体を大きく動かしたらクマになれそう！」「体を細長くしたらへびみたいにニョロニョロできたよ。」など体の形に関する視点で振り返っていた。そこで、生き物を表現するためには、どんな視点で動きを見つけたらよいのかを子ども自身が気付けることを目指して単元を展開した。

2 実践内容

(1) 単元名 「みんなでへんしんのじゅつ！」 『わたしたちのたいいく』 1年 P.12～15

(2) 単元目標

- 身近な題材の特徴を捉え、全身で踊ることの楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに題材になりきることができる。 **【知識及び技能】**
- 身近な題材の特徴を捉えた踊り方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。 **【思考力、判断力、表現力等】**
- 表現遊びに進んで取り組み、誰とでも仲よく踊ったり、場の安全に気を付けたりしようとしている。 **【学びに向かう力、人間性等】**

(3) 単元計画（全5時間）

時	1	2・3	4・5
学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の進め方、きまりや安全面について知る。 ・「やってみよう」を行う。 ・本時の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてを確認する。 ・活動①「いろいろないきものになりきっておどろう。」 ・『わたしたちのたいいく』を活用し挑戦してみる。 ・本時の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてを確認する。 ・活動②「ともだちとすきないきものになりきってぜんしんでおどろう。」 ・気付いたことを友達と伝え合い、もう一度挑戦してみる。 ・本時の振り返りをする。

(4) 授業の実際

① 「場の設定」としての活用

『わたしたちのたいいく』に示されている「いろいろな生きものになりきっておどろう。」(P.13)を参考にすることで、子どもたちがどんな動きをすれば、自分たちがイメージしている生き物の動きになるのか、見通しをもって取り組むことができた。特に、このイラストは背景に場所が描かれているため、本単元で設定している「状況に応じた変身」という世界観にも適しており、子どもたちがいきいきと表現する姿が見られた。



・場所に合った生き物の動きのイメージ [P.12]

② 自ら問題解決ができるための活用

活動①では、自分の変身したい生き物になるために何に気を付けたらよいのかを考えていた。そこで、子どもたちはイラストの指先やセリフに着目している様子が見られた。例えば、カマキリの子どもの指先は鎌を表現するために曲がっているが、ツバメの子どもの指先は翼を表現するためにピンと伸びていることに気付いていた。また、カエルやチョウチョを表現する子どもは「スイスイ」「ヒラリヒラリ」と言っており、同じように動きの速さに気を付けたら上手にできるのではないかと気付いていた。ここでは、子どもの指先や言葉だけでなく、目線や表情にまで詳細にイラストが描かれているため、自分で課題を見つけ、解決するためのツールとして有効に働いていた。



・子どもたちの気付きを促す紙面の工夫 [P.12]

③ 友達との関わりを充実させるための活用

活動②では、友達と共に表現をすることで、よりダイナミックな表現に挑戦していた。「ともだちとすきないきものになりきってぜんしんでおどろう。」(P.14,15)にあるように「友達と〇〇が〇〇をしているところ」に取り組むことや、相手と動きを合わせることで、より多様な表現ができる楽しさを味わっていた。また、その際に「もっとスピードを出して!」「もっと牙みたいに手を尖らせたなら?」など、友達にアドバイスを送る様子も見られた。



・ダイナミックな表現を生み出すしかけ [P.14,15]



・クマがケンカしているところを表現する子ども

3 終わりに

『わたしたちのたいいく』を「授業の環境設定」や「子ども同士の関わりを生み出す」ための課題を解決する手立てとして活用したことが、有効に働いた。子どもたちは、紙面を参考に、心から表現することの楽しさを味わう姿が見られた。今後とも、積極的に活用していきたい。

仲間と支え合い、関わることの喜びを味わいながら、自ら挑戦しようとする子どもを目指して

「マットあそび」 2年 器械・器具を使っての運動遊び

『わたしたちの体いく』 P.40～43

広島県熊野町立熊野第四小学校 教諭 長嶺 沙耶

1 はじめに

マット遊びは、「回る」「転がる」「支える」「跳ぶ」などの多様な動きを通して、体を巧みに動かす力やバランス感覚を育むことができる教材である。

本学級の子どもは、明るく賑やかで、友達との関わりを楽しみながら活動することが好きな子どもたちが多く、一方で、技の難しさや「できる・できない」の差に対して不安を感じる子どもも一部おり、挑戦することに対するためらいを見せる姿がある。そこで本単元では、マット遊びを「忍者の里」に見立て、修行や任務として楽しく周っていき活動を設定することで、楽しさの中に自然と挑戦意欲が生まれるように工夫した。また、友達と関わりながら技に取り組むことで、達成感や友達と学び合う喜びも味わえるような学習展開にしていった。

2 実践内容

(1) 単元名 「マットあそび」 『わたしたちの体いく』 2年 P.40～43

(2) 単元目標

- マット遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、マットに背中や腹などをつけていろいろな方向に転がったり、手や背中で支えて逆立ちをしたり、体を反らせたりするなどして遊ぶことができる。 【知識及び技能】
- 器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- マット遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりしようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】

(3) 単元計画（全7時間）

時	1	2～4	5～7
学 習 活 動	オリエンテーション	いろいろなマットあそびをしよう。	マットあそびをくふうしよう。
	<ul style="list-style-type: none"> ○準備や片付け方の確認をする。 ○学習の進め方を知る。 ○試しの運動遊びをする。 	用具や場の準備、動きづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○めあての確認。 ○「活どう②」を行う。 (坂道マット、ジグザグマット) ○マット遊びの場を工夫して遊ぶ。 ○気付いたことやできるようになったことを友達と伝え合う。
	振り返りをする		

(4) 授業の実際

① 「オリエンテーション」での活用

単元の導入にあたり、教室で『わたしたちの体いく』(P.40～43)を提示し、これからの学習の見通しをもたせるようにした。子どもたちは教材のイラストに興味を示し、「とても楽しそう。」「早くやりたい。」といった感想を口にしながら、今後の活動に期待を膨らませていた。単元の導入時点でこのような前向きな反応が見られたことは、学習意欲を高める上で有効であったと考えられる。

また、活動に入る前に、P.40に記載されている「きまり」を基に、マット遊びでの3つの約束を全員で確認した。あらかじめ約束を共有しておいたことで、実際の活動ではきまりを守ろうとする意識が高まり、互いに声を掛け合いながら協力して取り組む姿が多く見られた。

② 「活どう②」での活用

「活どう②」(P.43)では、マット遊園地を参考にしながらも、そのまま用いるのではなく、「筆隠れの里を大冒険するSランク任務」という設定にアレンジして活動を行った。子どもたちは、自分たちが忍者になって任務を遂行するという世界観に大きな関心を示し、意欲的に活動へ取り組んでいた。

各場所の課題は、ジグザグマットや川跳び、カエルの足打ちなど、マット遊園地にある動きを基にしているが、任務の内容として「川を跳び越えるべし」「3回足打ちするべし」「崖に落ちないように真っ直ぐ転がるべし」などの試練を表す言葉で提示した。その結果、子どもたちは技の習得だけでなく、物語に参加しているかのような感覚をもって活動し、自然と繰り返し挑戦する姿が見られた。



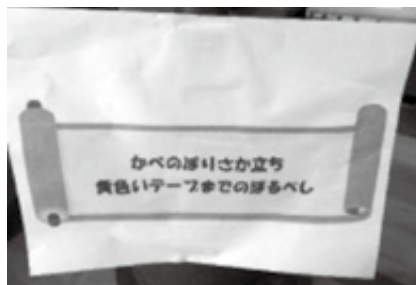
・マット遊園地 [P.43]



・筆隠れの里を大冒険するSランク任務



・川跳びの場の工夫



・壁登り逆立ちの場の工夫

3 終わりに

単元を通して『わたしたちの体いく』を活用し、きまりや活動の流れを確認したことで、子どもたちは安心して運動に取り組むことができました。また、「筆隠れの里を大冒険するSランク任務」という物語の要素を取り入れた設定にすることで、子どもたちは挑戦する意欲を高め、忍者になりきって技を習得しようとする姿が見られた。友達と声を掛け合い、成功を喜び合う経験は、技能の向上だけでなく学習を楽しむ気持ちにも繋がった。

教師にとっても、『わたしたちの体いく』は場の工夫や技のポイントを整理する上で大きな手がかりとなった。今後も学びに繋がるように、教材を効果的に取り入れていきたい。

みんな「が」楽しい みんな「で」楽しい愛顔ひろがる体育学習を目指して

「タグラグビー」 3年 ゲーム（ゴール型）

『わたしたちの体育』 P.78～83

愛媛県松山市立石井北小学校 教諭 東村 英憲

1 はじめに

「タグラグビー」はゴール型ゲームに分類される運動であり、ボールを持ってトライゾーンに運ぶことで得点を競う。また、タックルの代わりに腰に付けたタグを取るという非接触型のルールで行うため、安全性が高く、誰もが安心して参加できる。攻防の工夫を要するゲームであるため、児童には動きながら状況を判断し、チームで協力する力が求められる。このように、「タグラグビー」は運動技能の向上にとどまらず、思考力や他者と関わる力を育むことができる教材である。

本実践では、『わたしたちの体育』を活用し、児童がルールや動き方を視覚的に理解しながら活動に取り組めるようにした。本書に掲載されたイラストやアドバイス、作戦例を参考にすることで、児童は自分の考えを整理し、友達と協力して工夫した動きに挑戦する姿を目指した。一人ひとりの気付きがチームの力となり、みんなで力を伸ばしながら運動への肯定的な感情や主体的に運動を楽しもうとする態度の育成を図り、愛顔いっぱいを楽しめる体育学習を目指した。

2 実践内容

(1) 単元名 「タグラグビー」 『わたしたちの体育』 3年 P.78～83

(2) 単元目標

- タグラグビーの楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって、陣地を取り合って得点ゾーンに走り込むなどの易しいゲームをすることができる。 【知識及び技能】
- 規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- タグラグビーに進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】

(3) 単元計画（全8時間）

時	1	2	3	4	5	6	7	8
学習活動	【オリエンテーション】 ・単元の流れを知る。 ・タグラグビーの基本的な動きやルールを確認する。 ・チームづくりをする。 ・「やってみよう」を行う。（『わたしたちの体育』） ・ゲームの進め方やゲームの仕方を知る。	準備運動 「チームパワーアップタイム」						
		活動① 簡単なゲームをしよう。			活動② ルールを工夫したり、作戦を選んだりして、ゲームをしよう。			
		【パス回し】 【3人パス】 【タグとりおに】 【1対1すり抜けゲーム】 ・ゲームに必要な基本的な動きを知る。	【3対2ハーフコートタグラグビー】 ・ゲームの仕方を確認する。 ・ボールを持ったとき、ボールを持っていないときの動き方を考える。	【3対2ハーフコートタグラグビー】 ・パスの連携や守り方を考えながらミニゲームをする。	【3対3ハーフコートタグラグビー】 ・ゲームの仕方を確認する。 ・どのように動くよりたくさん得点につながるか考える。	【3対3タグラグビー】 ・ゲームの仕方を確認する。 ・『わたしたちの体育』を見て、作戦について考えを広げる。 ・作戦を立ててゲームをする。	【3対3タグラグビー】 ・自分たちのチームに合った作戦やルールを選択し、ゲームをする。	【タグラグビーカップ】 ・これまでの学習を生かし、さまざまなチームとのゲームを楽しむ。
振り 返 り								

(4) 授業の実際

① 基本的な動きの習得を目指した活用

単元の前半では、タグの取り方やパスの出し方、トライの方法など、タグラグビーに必要な基本的な技能の習得と向上を目指した。児童は、『わたしたちの体育』(P.79)に掲載された練習場面のイラストを見ることで動きのイメージを具体的に思い描くことができ、活動への見通しをもって取り組む姿が多く見られた。特に、タグを取る際の体の向きやパスの出し方、パスを出したあとの動き方など、言葉だけでは伝わりにくい動きも、視覚的な情報を通して理解が深まった。また、イラストを基に友達と動きを確認し合う姿も見られ、技能の定着だけでなく、学び合いの関係づくりにもつながった。



・やってみよう [P.79]

② 作戦を考え、チームで実践する力の育成を目指した活用

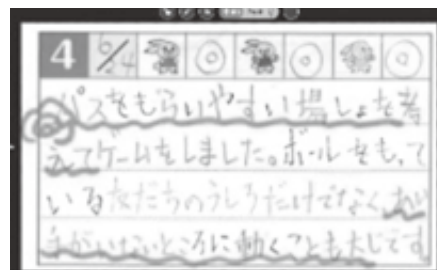
単元の中盤では、『わたしたちの体育』(P.80～82)に示された動きや作戦例を活用し、チームの強みを生かした動きを考える時間を設けた。児童は、イラストやアドバイスを参考にしながら、「誰がどこに走り込むか」「誰がどこでパスを受けるか」「どこに立って守るとよいか」など、一つひとつの動きを言語化し、友達と共有しながら整理していった。こうした思考の可視化を通して、ゲーム中に意図のある動きが生まれ、実際のプレイに反映させながら改善を図る姿が見られた。また、「みんなで1点を取ろう」という共通の目標に向かって自分たちで考えた作戦を実行し、成功体験を共有することで、児童の主体性や協働性が高まり、チーム全体でタグラグビーを楽しむ雰囲気形成された。



・チームとしての動きを話し合う児童の様子

③ 学びを蓄積し、つなげる振り返り場面での活用

『わたしたちの体育』(P.83)にある振り返り欄は、児童一人ひとりの学びの足跡を残すポートフォリオとして位置付け、活動後に「うまくいったこと」「挑戦したこと」「次に工夫したいこと」などを明確な視点で記述させた。紙面に書くことで、思考を整理しながら自分の成長を実感する姿が見られた。さらに、授業支援アプリを活用して振り返りカードをデジタル上に蓄積した。児童は文字だけでなく音声でも記録を残し、活動の様子を動画で確認しながら、自分の思いや工夫を言葉で語ることで、より深い自己理解につながった。こうした振り返りの積み重ねにより、個々の学びが友達と共有され、動きに対する目的意識や課題意識が高まった。アナログとデジタルを組み合わせた振り返りの工夫が、学びの質を高める手立てとなった。



・授業支援アプリと連携した振り返りの蓄積

3 終わりに

本実践では、『わたしたちの体育』を活用し、基本技能の習得、作戦の工夫、振り返りによる学びの深化を図った。動きのヒントとなるイラストがあることで、ゲームをよりよく楽しむための動きの理解が深まったり、友達と考えた作戦を実践したりすることができ、主体性や協働性が育むことができた。今後もみんな「が」楽しい、みんな「で」楽しい愛顔ひろがる体育学習を目指して、『わたしたちの体育』の活用方法を模索しながら実践していきたい。

めあてを変容させたり発展させたりしながら，課題を探求し続ける子ども

「動きをつくる運動・用具を使った運動」 4年 体づくり運動

『わたしたちの体育』 P.34～39

岡山県倉敷市立大高小学校 教諭 小西 悠太

1 はじめに

多様な動きをつくる運動は，体を動かす楽しさに触れるとともに，体のバランスをとる動き，体を移動する動き，用具を操作する動き，力試しの動きをし，それらを組み合わせて，基本的な動きを身に付けることをねらいとしている。『わたしたちの体育』に示された運動を活用し，自分の体力に合った運動に挑戦できるようにするとともに，友達と動きを交流し，協力しながら運動することで，関わり合いを深め，楽しさを味わいながら動きを高めることを目指した。

2 実践内容

(1) 単元名 「動きをつくる運動・用具を使った運動」 『わたしたちの体育』 4年 P.34～39

(2) 単元目標

- 多様な動きをつくる運動の行い方を知るとともに，体のバランスをとる動き，体を移動する動き，用具を操作する動き，力試しの動きをし，それらを組み合わせることができる。

【知識及び技能】

- 自己の課題を見つけ，その解決のための活動を工夫するとともに，考えたことを友達に伝えることができる。

【思考力, 判断力, 表現力等】

- 多様な動きをつくる運動に進んで取り組み，きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり，友達の考えを認めたり，場や用具の安全に気を付けたりしようとしている。

【学びに向かう力, 人間性等】

(3) 単元計画（全6時間）

時	学習活動	教師の支援
1 ・ 2	<p><オリエンテーション></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいと進め方，用具や場の使い方を知る。 ○いくつかの運動を実際に行い，動きのイメージをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『わたしたちの体育』のイラストを確認し，動きのイメージをもたせた上で，やってみる時間を設定することで，自分の目標（挑戦したい運動）を決めやすくする。
3 ・ 5	<p><動きをつくる運動・用具を使った運動></p> <ul style="list-style-type: none"> ○体のバランスをとる運動，体を移動する運動，用具を操作する運動，力試しの運動に挑戦する。 <p>【活動① 個人でやってみる】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 掲載されている運動 (2) 組み合わせた運動 <p>【活動② 友達と協力しながら運動をする】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 掲載されている運動 (2) 組み合わせた運動 	<ul style="list-style-type: none"> ・『わたしたちの体育』に示されている運動のイラストを掲示することで，児童が常に参考にすることができるようにする。 ・『わたしたちの体育』に示されている運動ができたなら自分でチェックさせることで，動きを組み合わせる際の参考になるようにする。 ・毎時間の振り返りには，運動のコツを『わたしたちの体育』に書き込ませることで，学習のあしあとが残るようにする。
6	<p><発表会をする></p> <ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな動きを組み合わせた運動を発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の種類ごとに見せ合うことで，自分が活動の中であまり取り組んでいなかった運動の行い方も理解できるようにする。

(4) 授業の実際

① オリエンテーションでの活用

『わたしたちの体育』に示されている運動のイラストを常に確認できるように掲示しておくことで、「次は、この運動をしてみよう。」「バランスが苦手だから挑戦してみよう。」と、どの児童も動きを参考にして活動することができた。また、体力テストの結果を『わたしたちの体育』(P.86,87)に書き込み、自分の運動能力を把握することで、自分の得意な動き・苦手な動きを意識して運動に取り組むことができた。



・力試しの運動



・体のバランスをとる運動

② 学習のあしあとでの活用

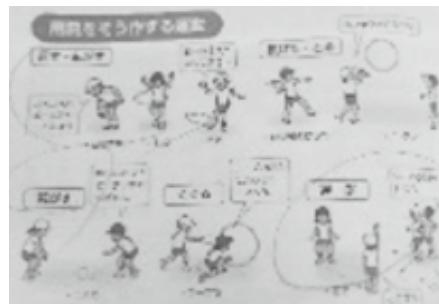
学習の振り返りをする際に、『わたしたちの体育』(P.39)の記入欄に学びを記述するだけでなく、掲載されているイラストに印を付けて、自分が行った運動を振り返った。前時の振り返りと印を付けたイラストを手がかりにして、本時の学習をより深めることができた。



・2種類の用具を操作する運動



・同じ用具を2つ操作する運動



・印を付けて活動を振り返る

【児童の学習のあしあと（振り返り）より】

- ・一輪車に初めて乗ったので、最初は怖かった。しかし、友達と練習すると乗れるようになった。
- ・友達の動きを参考にすることで、フープができるようになった。
- ・フープをしながらボールキャッチに挑戦した。タイミングを合わせるために声を出すと、フープを取ることに成功した。

3 終わりに

単元を通して『わたしたちの体育』を活用することで、子どもたちは見通しをもって授業に取り組むことができた。特に、オリエンテーションでは、言葉で説明するよりも動きのイメージをもたせるのに有効的であった。単元の終末には、『わたしたちの体育』に示されていない運動も自分たちで考え、挑戦する姿が見られた。『わたしたちの体育』には、児童が遊び感覚で取り組める多様な運動が示されており、それを手がかりに運動を組み合わせたたり発展させたりすることで、児童は「多様な動きをつくる運動」のおもしろさを自ら広げていくことができた。今後も、児童の学びを支えるために、『わたしたちの体育』を積極的に活用していきたい。

夢中になって挑戦し続けることができる子どもを目指して

「走りばとび」 5年 陸上運動

『わたしたちの体育』 P.64～67
高知県の町立枝川小学校 教諭 馬越 新

1 はじめに

走り幅跳びは、リズムカルな助走から力強く踏み切って遠くへ跳び、記録に挑戦したり、相手と競争したりする楽しさや喜びを味わうことができる運動である。このとき、試技の回数や踏切りゾーンの設置などのルールを工夫することで競争をより楽しむことができる。一方で、助走がリズムカルに行えず、うまく踏み切ることができなかつたり、踏み切ってからの空中姿勢や着地が思うようにできなかつたりして、記録が伸びる楽しさや喜び、遠くに跳ぶ感覚を味わうことができないと、意欲の継続が難しいことが想定される。

そこで、『わたしたちの体育』を活用することで、苦手意識をもつ児童が個々の課題を確認し、遠くへ跳ぶための感覚を養う場の設定を工夫するなどして、記録が伸びる喜びや他者と競争する楽しさを感じながら、走り幅跳びの楽しさを体験できるようにしたいと考えた。

2 実践内容

(1) 単元名 「走りばとび」 『わたしたちの体育』 5年 P.64～67

(2) 単元目標

- 走り幅跳びの行い方を理解し、リズムカルな助走から踏み切って跳ぶことができる。

【知識及び技能】

- 自己の能力に適した課題の解決の仕方、競争や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- 走り幅跳びに積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動したり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取り組みを認めたり、場や用具の安全に気を配ったりしようとしている。

【学びに向かう力、人間性等】

(3) 単元計画（全6時間）

時	1	2・3	4・5	6
学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の進め方、きまりや安全面について知る。 ・ 「やってみよう」を行う。 ・ 振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「活動①」を行う。 ・ 『わたしたちの体育』やタブレットを活用し挑戦してみる。 ・ 振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「活動②」を行う。 ・ 課題の解決の仕方を考え、試す。 ・ 振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気付いたことを仲間と伝え合い、もう一度挑戦してみる。 ・ 単元の振り返りをする。

(4) 授業の実際

① 「活動①」での活用

1時間目のオリエンテーションでは、走り幅跳びのイメージを全体で共有した。砂場に幅1mのブルーシートを敷き、それを「水たまり」に見立てた。教師が失敗例の試技を見せ、「水たまりに落ちることは体が濡れる。」というイメージを児童と共有した。遠くに跳ぶというイメージから、対象のものを跳び越えられるか跳び越えられないかという遊びの要素を取り入れたことで、児童はやってみたくて意欲的に活動に取り組む姿が見られた。

何度かブルーシートを跳び越える活動を行ったあと、活動①では『わたしたちの体育』を使って、かがみ跳びのリズミカルな助走から力強く踏み切って、安全に着地するまでのポイントを確認した。児童はチェック項目を使って仲間と見合ったり、タブレットで撮影した動画を見返したりしながら、自分の課題を見つけ、解決するためのツールとして活用することができていた。



・かがみ跳びのポイント [P.65]

② 「活動②」での活用

活動②では、より遠くへ跳ぶために、それぞれの課題を解決する場の活動の例として、『わたしたちの体育』(P.66)の活動②のイラストを示した。上体を起こしたまま跳んだり、跳んでいる際に体がふわっと浮く感覚をつかんだりするために、踏切り板と跳び箱を使った場を設定した。これをきっかけに、場を工夫して活動に取り組む児童が増えていった。

例えば、かがみ跳びのポイントのイラストから遠くに跳ぶためには、膝をお腹に近づけることが大事だと気付いた児童が、その課題を解決する場を考えていた。児童は、「膝をお腹に引き付けているつもりだが、できていくかわりにくい。」と教師に相談してきた。そこで、接触しても痛くないスポンジ製の長い棒を用意した。それを仲間が踏切りゾーンの前でもち、それに接触せずに跳び越えることを促した。その方法によって、膝をお腹に引き付ける感覚を身に付けようとしていた。



・場の工夫 [P.66]

3 終わりに

『わたしたちの体育』には、単元の中での基礎・基本となる運動や活動(今回の走り幅跳びでは、かがみ跳びのポイントやスタート位置の見つけ方、跳んだ距離の測り方など)のポイントが、チェック項目やイラスト付きで載っていることが魅力的であると思う。どの児童にとっても、自分のタイミングで見返したり、必要な情報を見つけたりすることに役立っていた。また、『わたしたちの体育』を介して、それぞれの動きのポイントについて話し合うことができていた。資料を使って話し合うことで、児童同士も同じイメージをもって話し合っていた。今後も、『わたしたちの体育』を効果的に活用し、児童が運動に没頭し自ら学び、思考を深めることができる体育科学学習を目指していきたい。

仲間と協力し、課題に挑戦し続ける子どもを目指して

「ギリギリの高さを跳び越えよう」 6年 陸上運動

『わたしたちの体育』 P.54～57

徳島県徳島市川内北小学校 教諭 大黒 直人

1 はじめに

走り高跳びは、試技の回数やバーの高さの決め方などのルールを決めて競争したり、自己の記録の伸びや目標とする記録の達成を目指したりしながら、リズムカルな助走から力強く踏み切って跳ぶことが楽しい運動である。しかし、記録の向上や他者との競争を目的として全面に押し出してしまうと、跳ぶことが苦手な子どもや不安感の強い子どもにとっては、運動に積極的に参加することが難しくなる。

そこで、本単元では記録の向上や他者との競争は、運動の楽しさや喜びに触れるための一手段として捉えて学習を進めていくことにした。そして、単元の導入場面において「バーを跳び越えて向こう側に着地しよう。」と投げかけ、走り高跳びと出合うことができるようにした。その際、『わたしたちの体育』の「やってみよう」(P.54)に掲載されているゴムやロイター板を活用することで、バーにぶつかってしまう不安感を和らげ、身体がふわっと浮く楽しさを感じながら安心して運動に参加することができるようにした。そこで、「どうすれば自分のギリギリの高さを跳び越えることができるだろう。」と問いを提示し、自分なりに課題を見つけ、積極的に活動に参加できることを目指した。

2 実践内容

(1) 単元名 「ギリギリの高さを跳び越えよう」 『わたしたちの体育』 6年 P.54～57

(2) 単元目標

- 走り高跳びの楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、リズムカルな助走から力強く踏み切って跳ぶことができる。 【知識及び技能】
- 自己の能力に適した課題を見つけ、自己の記録への挑戦の仕方を工夫し、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- 走り高跳びに積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取り組みを認めたり、場や用具の安全に気を配ったりしようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】

(3) 単元計画 (全5時間)

時	1	2・3	4・5
学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の進め方や、安全に運動するためのきまりについて知る。 ・「やってみよう」を行う。 ・本時の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてを確認する。 ・活動①「ギリギリの高さを跳び越える方法を見つけよう。」 ・『わたしたちの体育』やタブレットを活用し挑戦する。 ・本時の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてを確認する。 ・活動②「仲間の考えを参考にしてギリギリの高さを跳び越えよう。」 ・気付いたことを友達と伝え合い、もう一度挑戦してみる。 ・本時の振り返りをする。

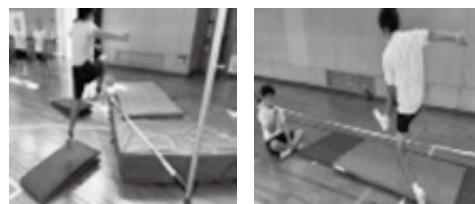
(4) 授業の実際

① 「場の設定」としての活用

活動①では、『わたしたちの体育』に示されている「高とびの練習の場」(P.55)を参考にするだけで、場に意味をもたせ、意図的な場をつくることのできた。紙面のように動きのポイントが分かるような場を複数設定することで、自然と子どもたちから動きのポイントを伝え合ったり、課題解決に向けて何度も挑戦したりする姿が見られた。



・高跳びの練習の場 [P.55]



・高跳びの実際の場合

② 仲間との関わりを充実させるための活用

活動②では、跳び越える姿を友達と見合うことで、課題が明確になり、自分のギリギリの高さに挑戦するために、主体的に活動する姿が見られた。上で示した「高跳びの練習」のポイントとタブレットで撮影した動きを比較したり関係づけながら、気付いたことを伝え合う中で、今までと違う動きを試そうとしたり、場を変えて挑戦したりしようとする姿が見られた。



・仲間と動きのポイントを伝え合っている様子

仲間へアドバイスをする際は、助走バーからの踏切りの位置など、仲間の挑戦(課題解決の手段)に合わせた動きのポイントを伝え、うまく跳び越えられた際には自分のことのように喜び、協力し合う姿も見られた。

③ 振り返りの充実

『わたしたちの体育』の「学習のあしあと」を活用し、その時間に気付いたことや困っていること、次の時間に挑戦したいことを書くようにした。自分のこれまでの学びを見ることで成長を実感することができていた。また、教師が子どもの思いを把握することができ、子ども一人ひとりへの声かけや、同じ悩みや目標をもっている子ども同士をつなぐ支援ができた。



・学習のあしあとを活用している姿

3 終わりに

『わたしたちの体育』を「授業の環境設定」や「自分のギリギリの高さを跳び越える」ための課題を解決する手立てとして活用したことが、子どもの主体的な学びに有効に働いた。また、「学習のあしあと」を確認することで自分の成長を実感することにつながり、自分の課題を明確にして授業に臨むことができていたりしていた。『わたしたちの体育』を活用することで、主体的に活動に取り組む姿や仲間と協力する姿が多く見られたと感じた。子どもの主体的で対話的で深い学びのきっかけになり、教師も単元を構成したり場設定をしたりするにあたって助かる部分が大きかった。今後も積極的な活用を進めていきたい。

イメージした世界に没入し、楽しんで表現することができる子どもを目指して

「わたしたちの地球を表現しよう」 6年 表現運動

『わたしたちの体育』 P.78～81

山口県山口市立大内南小学校 教諭 重宗 俊輝

1 はじめに

表現運動は、自己の心身を解き放して、イメージやリズムの世界に没入してなりきって踊ることが楽しい運動であり、互いのよさを生かし合って仲間と交流して踊る楽しさや喜びを味わうことができる運動である。しかし、恥ずかしさがあったり、ある対象をイメージすることが苦手な子どもは、ひと流れ、ひとまとまりの動きで表現することに抵抗感や困難さを感じることもある運動でもある。

そこで、本単元では、まず音楽に合わせて楽しく踊ろうと促し、中学年や第5学年で学習した踊りを取り入れることで安心して表現と出合えるようにした。それに加え『わたしたちの体育』の「やってみよう」(P.78)に掲載されている新聞紙、リボン、わりばしを用いた。体の動かし方(ねじる、転がる)がイメージしやすかったり、自然に仲間と動きを合わせることができたりしたことで、多くの子どもが楽しく活動に参加している様子がみられた。第1時の振り返りでは、子どもから「新聞紙で表現することで楽しく踊れた。」、「もっとはげしく踊りたい。」という意見が出てきた。そこで、「イメージをみんなに伝えるためにはどのように表現すればよいか。」と問いを提示し、自分なりに課題を見つけ、よりよい表現を追求していくことを目指した。

2 実践内容

(1) 単元名 「わたしたちの地球を表現しよう」 『わたしたちの体育』 6年 P.78～81

(2) 単元目標

- 表現運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、題材から主な特徴を捉え、表したい感じやイメージをひと流れの動きで即興的に表現したり、グループでひとまとまりの動きにしたりして表現することができる。 **【知識及び技能】**
- 自己やグループの課題の解決に向けて、表したい内容や踊りの特徴を捉えた練習や発表の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 **【思考力、判断力、表現力等】**
- 表現運動に積極的に取り組み、互いのよさを認め合い助け合って踊ったり、場の安全に気を配ったりしようとしている。 **【学びに向かう力、人間性等】**

(3) 単元計画 (全6時間)

時	1	2～4	5・6
学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の目標や進め方について知る。 ・「やってみよう」を行う。 ・本時の振り返りをする。(CD-V-1, V-2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてを確認する。 ・活動①「“地球”のイメージをふくらませて、ひと流れの動きにして、思いつくままにおどろう。」 ・『わたしたちの体育』やタブレットを活用し、自分や仲間の動きを視聴し、意見を交流する。 ・本時の振り返りをする。(CD-Ⅲ-11, Ⅲ-12) 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてを確認する。 ・活動②「仲間と動き方を工夫して、ひとまとまりの動きにしておどろう。」 ・動きを見せ合って、よさや改善点を『わたしたちの体育』(P.78)の『動きづくりの工夫』を参考に伝え合う。 ・本時の振り返りをする。(CD-Ⅲ-13, Ⅲ-14)

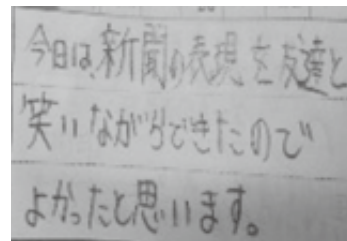
(4) 授業の実際

① 導入場面での活用

『わたしたちの体育』に示されている「やってみよう」(P.78)を参考に導入場面を行った。新聞紙のように動きをイメージしやすいものを使用したことで、ねじる、転がるなど体の使い方を自然に習得することができた。また、自然と仲間と動きを合わせることができるわりばしを使用したことで、仲間と笑顔で表現する姿がみられた。



・新聞紙になりきっている子ども



・子どもの振り返り [P.79]

② 仲間との関わりを豊かにするための活用

『わたしたちの体育』に示されている「動きづくりの工夫」(P.78)を活用し、動きについて気付きを伝え合う活動を行った。そうすることで、体、リズム、空間、仲間に関する知識を習得したり、それをもとに仲間アドバイスして動きを修正したりしていく姿がみられた。振り返り(P.79)においても「空間体の使い方を工夫してやりたい。」「体をゆらすときにもっと大きくなめらかにやりたい。」など積極的に動きをよくしていこうとする記述や発言もみられた。



・仲間と交流する子どもたち



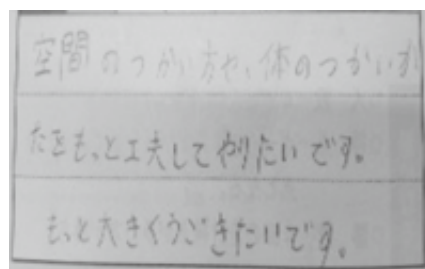
・動きづくりの工夫 [P.78]

③ ひと流れの動きを工夫するための活用

『わたしたちの体育』に示されている活動①の挿絵を参考にしながら、ひと流れの動きを工夫する活動を行った。火山の爆発を表現する際、『わたしたちの体育』に示されているように指先までこだわり体を大きく使ったり、高く跳んだりして火山の爆発を表現する姿がみられた。絵や動きに関する言葉があることで動きをイメージしやすくなり自信をもってイメージした世界を表現することができていた。



・火山の爆発を表現する子どもたち



・子どもの振り返り [P.79]

3 終わりに

『わたしたちの体育』を「どのように表現すればイメージをみんなに伝えることができるか。」という課題を解決する手立てとして活用したことが、有効に働いた。子どもたちは4つの動きの工夫を基に、気付きを伝え合い、イメージを仲間に伝えるために表現を何度も修正しようとする姿が見られた。動きのポイントや表現している子どもたちの絵が記載してあったことで、子どもたちはそれを頼りに活動することができていた。今後も子どもたちの学びを伝えるために積極的に活用していきたい。

第63回 中・四国小学校体育研究大会（島根大会）報告

1 はじめに

第63回中・四国小学校体育研究大会（島根大会）の開催にあたり、中・四国各県から400名を超える多くの先生方に御参加いただきましたことに厚く御礼申し上げます。島根大会では中・四国小学校体育連盟の運営構想に基づき、以下に示します提案授業7領域と11分科会で行いました。島根県の研究主題のもと、会場校である出雲市立さくら小学校、平田小学校それぞれの学校の実態に合わせてすべての授業において「学ぶ機会の保障」「教材化と系統立てた指導」「課題解決力の育成」「汎用能力の高まり」を大切にされた授業公開がなされました。

会場校として研究に取り組まれた出雲市立さくら小学校・平田小学校の教職員の皆様、各県の分科会発表をいただいた先生方、指導助言の先生方、大会運営にご協力いただいた役員の皆様に厚く感謝申し上げます。

2 期 日／令和7年10月24日（金）

3 会 場／出雲市立さくら小学校 出雲市立平田小学校 出雲市民会館 ニューウェルシティ出雲

4 研究主題／ 動いて自覚し 動きの質を高め合う しまねっ子
—なりたい姿のイメージをもち、「できそう」「できた」が連続する体育学習—

5 提案授業

<さくら小学校>

	学年	領 域	単元名	提案会場	授業者（司会者）	指導助言者
提案授業①	4年	ゲーム	キャッチネットⅣ	さくら小 体育館	土江 真綾 (原 尚樹)	客野 智 (島根 十神小 教諭)
提案授業②	6年	ボール運動	リングゴール	さくら小 体育館	塚田 大樹 (福間 雅基)	清水 将 (岩手大学 准教授)

<平田小学校>

	学年	領 域	単元名	提案会場	授業者（司会者）	指導助言者
提案授業①	2年	器械・器具を使った運動遊び	マット運動会	平田小 体育館	勝部 新 (野田 千尋)	清水 由 (桐蔭横浜大学 准教授)
	5年	陸上運動	めざせ！新記録	平田小校庭	多々納 春樹 (天野 佐都子)	安達 裕介 (島根 旅伏小 教頭)
提案授業②	1年	体づくりの運動遊び	すごろくランド	平田小 体育館	今岡 百花 (北川 大樹)	太田 康弘 (島根 内中原小 主幹教諭)
	3年	表現運動	みんなでおやつ作り	平田体育館 (平田小となり)	室之園 大和 (太田 政男)	梶谷 朱美 (島根県立大学 教授)
	6年	保 健	病気の予防	平田小 6年教室	塚田 哲也 井浦 志帆 (大畑 元矢)	吉谷 不美男 (島根 斐川西中 校長)

6 分科会

No.	分科会	分科会テーマ（県内テーマ）	提案発表者	司会者	指導助言者
1	体づくり運動 (体ほぐし)	仲間と力をあわせ、関わり合って挑戦する運動(遊び)を通して、仲間とともにやりたい姿に向かって挑戦し続ける子どもを育てる。	川越 弘喜 (島根 日原小 教諭) 田畑 賢人 (山口 熊野小 教諭) 井上 孝介 (山口 王司小 教諭)	小島 祐哉 (島根 真砂小 教諭)	江角 貴人 (島根 川津小 主幹教諭) 田中 祐二 (山口 西山小 教頭)
2	器械・器具を使った運動遊び (低)	「遊び集」や「かかわりプラン」などを活用し、夢中になれる感覚づくり(遊び)を工夫することで、やりたい姿に向かって挑戦し続ける子どもを育てる。	片寄 直寛 (島根 長浜小 教諭) 辻井 直 (島根 末恒小 教諭)	野田 千尋 (島根 大津小 教諭)	小田 公弘 (江津市教育委員会 指導主事) 露木 克久 (鳥取 八東小 教頭)
3	走・跳の運動 (低・中)	身に付けた技能を発展させていく授業構成と下位運動の工夫によって、やりたい姿に向かって挑戦し続ける子どもを育てる。	狩野 雅文 (島根 三成小 教諭) 松本 昂大 (広島 海田南小 教諭)	今井 隆雄 (島根 母里小 教諭)	花田 利香 (島根県保健体育課 指導主事) 福富 健吾 (広島県教育委員会 指導主事)
4	ゲーム (低・中)	基本的な技能の高まりを保証し、仲間とともによりよい動きを考え試行錯誤できるようにルールや場を工夫することで、やりたい姿に向かって挑戦し続ける子どもを育てる。	大谷 亮介 (島根大学附属 教諭) 山崎 裕貴 (鳥取 羽合小 教諭)	小山 大志 (島根 法吉小 教諭)	西村 寛 (島根大学 准教授) 綱本 大介 (鳥取県教育委員会 指導主事)
5	体づくり運動 (多様な動き・体の動きを高める)	身に付けさせたい動きを明確にし、学びの足跡や見通しが分かる掲示物の活用や時間設定を工夫することで、やりたい姿に向かって挑戦し続ける子どもを育てる。	三島 健 (島根 知夫小 教諭) 長崎 宏彰 (島根 海士小 教諭) 倉本 幸治 (岡山 加賀東小 教諭) 川上 敦史 (岡山 加賀西小 教諭)	北川 大樹 (島根 赤屋小 教諭)	太田 康弘 (島根 内中原小 主幹教諭) 小河 直之 (岡山県教育庁保健 体育課 指導主事)
6	器械運動 (中・高)	身に付けたい技の知識を習得したり、課題解決のための方法を自ら選んだりすることのできるマットカードを活用することで、やりたい姿に向かって挑戦し続ける子どもを育てる。	小豆澤 穂 (島根 長浜小 教諭) 結城 翔一 (広島 大州小 教諭)	山根 祐太 (島根 美川小 教諭)	久保 研二 (広島大学 准教授) 高谷 直之 (広島市教育委員会 指導主事)
7	陸上運動 (高)	2つの単元を組み合わせて比較し、動きの類似点や相違点を子どもたちが見つけ、練習の場を工夫することで、やりたい姿に向かって挑戦し続ける子どもを育てる。	三浦 公一 (島根 西小 教諭) 大西 梓司 (高知 高岡第一小 教諭)	天野 佐都子 (島根 高松小 教諭)	安達 裕介 (島根 旅伏小 教頭) 宮本 隆信 (高知大学 教授)
8	水 泳 (低・中・高)	学びの系統性や身に付けさせたい力などを明確にした「水泳学習モデル」を活用し、子どもの主体性や学習意欲を引き出す工夫をすることで、やりたい姿に向かって挑戦し続ける子どもを育てる。	原田 靖之 (島根 長久小 教諭) 前川 憲貴 (香川 比地小 教諭)	林 知洋 (島根 大田小 教諭)	生越 徹 (島根 久手小 校長) 大麻 弘善 (香川 一ノ谷小 教頭)
9	ボール運動 (高)	プレー上の制限やルールの簡易化により学習課題を追求しやすくなり、運動の基礎感覚や基本技能を高める時間を工夫したりすることで、やりたい姿に向かって挑戦し続ける子どもを育てる。	重永 慧太 (島根 桜江小 教諭) 桑平 圭生 (徳島 生比奈小 教諭)	福岡 雅基 (島根 高角小 教諭)	小林 敏朗 (島根 津田小 校長) 湯口 雅史 (鳴門教育大学 教授)
10	表現運動 (低・中・高)	だれもが様々な動きを表現しやすい「表現カルタ」を活用したり、単元構成やICTの活用を工夫したりすることで、やりたい姿に向かって挑戦し続ける子どもを育てる。	溝田 里美 (島根 匹見小 教諭) 小田 浩斗 (山口 神田小 教諭)	太田 政男 (島根 石見東小 教諭)	梶谷 朱美 (島根県立大学 教授) 上田 雅純 (山口 白石小 教頭)
11	保 健 (中・高)	自己の健康や安全についての課題を見つけ、今の生活と比べたり関連付けたりしながら解決方法を考え、表現することで、やりたい姿に向かって挑戦し続ける子どもを育てる。	八木 京 (島根 飯梨小 教諭) 河野 臣紀 (愛媛 東雲小 教諭)	大畑 元矢 (島根 高津小 教諭)	吉谷 不美男 (島根 斐川西中 校長) 西尾 朋教 (松山市教育委員会 指導主事)



中・四国小学校体育連盟スーパーバイザー
愛媛大学教育学部長・教授

日野 克博 先生

【中・四国小学校体育連盟 創立70周年を迎えて】

まず、創立70周年を迎える連盟についてです。中・四国小学校体育連盟の活性化は、今後も引き継いでいかなければならないものと考えております。中・四国小体連の主な取り組みは、大きく三つあります。研究大会、機関誌、準教科書の作成です。

研究大会は、昭和38年（1963年）から開催され、今回で第63回を迎えます。まさに歴史と伝統のある大会です。大会主題を設定し、実際の授業を通して情報を共有することは、大変意義深い取り組みと感じております。研究大会は、当番校・当番県だけががんばるのではなく、他の各県もそれぞれの取り組みを発表し合い、一つになって大会を盛り上げていくことに大きな特徴があります。その影響力をさらに広げていきたいと考えています。

二つ目は、機関誌の発行です。昨年度は第53号、今年度は第54号で記念号になる予定です。機関誌には、研究大会に参加できなくても、各県の具体的な実践例が数多く紹介されており、日頃の授業実践につなげていただければと思っております。

三つ目は、準教科書『わたしたちの体育』の作成です。学校現場の先生方が中心となって、現場の実践をサポートすることを目的に作成されています。特に授業づくりに悩む初任の先生方や体育授業に苦手意識をもっている先生方を支援する取り組みとして大きな役割を果たしています。表現運動のCD等も活用し、中・四国全体における体育授業のレベルアップを図っております。また、役員先生方は、中・四国小学校健康教育研究会を通して教科書『わたしたちの保健』の作成にも関わっています。これらの取り組みを継続し発展させていくことが、中・四国小学校体育連盟の存在価値を一層高めていくものと考えています。

【次期学習指導要領改訂に向けて】

9月25日に、次期学習指導要領に向けて論点整理が示されました。そこでは、大きく三つの視点が挙げられています。一つ目は、「深い学びの実装」です。「主体的・対話的で深い学び」をより確かなものとして定着させ、現在行われている実践の質を一層高めていくことが求められています。二つ目は、「多様性の包摂」です。体育では以前から、一人ひとりの能力に応じた課題をもって学習を進めていくことが重視されてきました。多様性が広がる中で、より工夫を凝らした取り組みが求められています。三つ目は、「実現可能性の確保」です。理想を掲げるだけでなく、学校現場において確実に実行できることが重要です。体育が苦手な先生もいる中で、全ての先生方がより確かな授業ができるようにしていく必要があります。私が日頃から大切だと思っていることは、「シンプルだけど奥深い」授業にしていこうことです。

【島根大会の提案について】

今回の島根大会の提案では、子どもたちの思いを大切にしながら、「なりたい姿」「できそう」「できた」という学びのプロセスが重視されていました。各会場での取り組みとして、さくら小学校では学習内容を精選し、ネット型ゲームの本質に迫る授業が提案されていました。平田小学校では、学習内容を体系化し、汎用的な能力につなげていくことが大切にされていました。いずれの授業も、子どもの豊かな表情が見られ、子どもの声を丁寧に引き出そうとする先生方の姿が、非常に印象的でした。

スポーツ基本法が改正され、スポーツの果たす役割として、「する、見る、支える」に加えて、「集まる、つながる」が明示されました。まさに、この中・四国小学校体育連盟そのものが、集まりつながっていく場であると言えます。次年度は、この取り組みが香川県へと引き継がれます。全ての子どもたちの可能性を開花させ、運動やスポーツへの「アクティブ・ラーナー」を育てていくことが、私たちに求められていると考えます。改めて、中・四国小体連の連携の強さや知恵の共有、そして絆を大切にしながら、これからも共に歩んでいきたいと思っております。



国立教育政策研究所 教育課程研究センター
教育課程調査官

塩見 英樹 先生

演題

「学習指導要領の更なる趣旨の実現を目指して、
今、体育の授業づくりで大切にしたいこと」

【現行学習指導要領の趣旨の更なる実現を目指して】

1点目は、確かな学力についてです。先日、日野先生に「改めて体育の授業って大事ですね」というお話を伺いました。子どもたちが学校に通う日が1年のうち約2/3で、その中で体育の授業があるのは週に3回程度、授業時間も45分程度と限られています。だからこそ毎時間の体育の授業は大事だというお話でした。

京都市教育委員会で指導主事をしていた頃、若手の先生に「跳び箱運動って必要ですか？」と聞かれたことがあります。私はこう答えました。「体育は跳び箱運動のアスリートを育てているわけではありません。跳び箱運動の学習を通して、知識及び技能の習得が期待できます。例えば、腕を支点とした体重移動のような、日常ではなかなか体験できない動きを、神経系の発達が著しい子どもたちに習得させることが期待できます。また、「どうしたらできるか」を真剣に考え、仲間と互いに思いや考えを伝える思考力、判断力、表現力等の育成、そして安全に気を配るといった学びに向かう力、人間性等の涵養、この3つの資質・能力、いわゆる学力が育成できるからこそ、跳び箱運動は大事なのです」

現行の学習指導要領は全面実施されてから6年目、ちょうど折り返し地点を過ぎたあたりにいます。次期改訂の準備も必要です。同時に、現行の学習指導要領の趣旨の更なる実現を目指すことも大切です。

2点目は、島根大会の研究構想の中で示されている「なりたい姿に向かう基礎感覚や基本機能を高めていくための手立ての追求」についてです。私からのキーワードは「成功体験」です。その「成功体験」を学校全体で、低学年、中学年、高学年と段階的に子どもたちに味わわせていく指導が大切です。

例えば、課題やルール、場や用具等を緩和することや、運動の苦手な子どもにそれぞれの運動の特性に応じた配慮をしていくなどが考えられます。その前提として、運動の特性に子どもたちが触れ、例えばボール運動系では勝ちたいから作戦を考え、協力していくことによって「成功体験」を味わえるような授業づくりが大切です。

さらに、系統性を踏まえた指導が求められます。技能の内容は低学年から積み上がっていきませんが、土台がしっかりできていないと積み上がりません。教師は6年間の系統性を俯瞰し、「今この学年で付けるべき資質・能力は何なのか」を明確にすることが、子どもたちに確かな学力を育成することにつながります。また、例えば走り高跳びと走り幅跳びのように、どちらかの単元で学んだことをもう一方の単元で活用することにより、生涯にわたる豊かなスポーツライフの中で主体的に活用できる習熟した技能として習得することも期待できます。つまり、同じ領域内の横の繋がりも意識していくことが大切です。

3点目は、次期学習指導要領に向けた検討の基盤となる考え方の一つである「主体的・対話的で深い学びの実装」についてです。深い学びは、見方・考え方を働かせることが鍵となります。

改めて、体育や保健の見方・考え方を働かせ、運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決のための活動を選んだり工夫したりする活動の充実を図ることが求められます。

【島根大会の研究構想より】

島根大会の研究構想の中で示されている視点を通して、現行の学習指導要領の趣旨の更なる実現を目指した具体策についてお話しします。

視点として「なりたい姿をイメージし、自己の課題や資質の自覚を促す」と示されています。子どもたちが「なりたい姿」をイメージするためには、教師が育成を目指す具体的な姿をイメージすることが求められると思います。

教師が育成を目指す具体的な姿をイメージするためには、評価規準を基に具体的な子どもの姿を想定する必要があります。教師が「こんな姿にしたい」と思い、できるだけ具体的な姿まで落とし込むことが、子どもたちがなりたい姿をイメージすることに繋がるのではないのでしょうか。

その際には、学習指導要領の趣旨に即して具体の子どもの姿を想定することが大切です。一例を挙げると、「進んで取り組もうとしている」（主体的に学習に取り組む態度）を評価する場合、現行の学習指導要領では、

- | |
|---|
| <p>① 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、</p> <p>② ①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面、という二つの側面</p> |
|---|

を評価することが求められています。一方、体育科（運動領域）は、豊かなスポーツライフを実現することを重視し、従前より「態度」を指導内容として示していることから、「学びに向かう力、人間性等」に対応した内容を示しています。つまり、体育科（運動領域）については以下のようになります。

- | |
|---|
| <p>① 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたり、<u>学びに向かう力、人間性等を涵養したりすること</u>に向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、</p> <p>② ①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面、という二つの側面</p> |
|---|

「進んで取り組もうとしている」具体の子どもの姿を想定する際には、このような学習指導要領の趣旨に即して考えることが大切です。

【終わりに】

次期学習指導要領に向けた検討の基盤となる考え方では、「多様な子どもたちの深い学びを確かなものに」という方向性が示されています。

ここ出雲市にあります島根県立大社高校の野球部の監督も、著書の中で全ての教員に課された使命は「一人ひとりと向き合うこと」だと述べられています。多様な個性や特性、背景を有する子どもが多くなっている実態がある中で全ての子どもが楽しく、安心して運動に取り組むことができる機会を今後も保障することが一層重視されていくと思います。そのためにも、「多様な他者を理解し、協力しながら学習課題を解決するような取組」がより一層求められるのではないのでしょうか。

私たちに求められているのは、体育で何を育てているのかを常に意識して授業を続けることだと思います。今、私たちはその真価が問われている時にいるのです。

70周年記念 会員表彰者

島根県

上田 佳樹



徳島県

林 哲史



広島県

岩本 美保



高知県

中野 浩史



山口県

吉松 英樹



鳥取県

谷口 俊輔



本連盟創立70周年を記念して、体育研究における理論と実践を兼ね備え、各県体育科教育の充実と発展に貢献された現場の先生計6名を、中・四国小学校体育連盟70周年記念大会レセプションで表彰を行った。

第64回 中・四国小学校体育研究大会（香川大会）予備案内

大会主題

全ての子どもが未来を創る体育学習

—自ら学びを整えながら進め みんなでみんなが「できる・わかる」ための授業づくり—

1. 主催 中・四国小学校体育連盟 香川県小学校体育連盟 香川県小学校教育研究会
2. 後援 スポーツ庁（予定） 香川県教育委員会 高松市教育委員会
香川県小学校長会 香川県学校体育会
3. 主管 第64回中・四国小学校体育研究大会（香川大会）実行委員会
高松市立新番丁小学校
4. 期日 令和8年10月23日（金）
5. 会場 高松市立新番丁小学校
〒760-0020 香川県高松市錦町二丁目14-1 TEL 087-851-1316
FAX 087-851-1317
6. 講師 全体指導 中・四国小学校体育連盟 スーパーバイザー
愛媛大学 教授 日野 克博 先生
講演 国立教育政策研究所 教育課程研究センター
教育課程調査官 塩見 英樹 先生

7. 日程

8:00 }	8:30 }	9:15 }	10:15 }	11:15 }	11:25 }	12:10 }	13:00 }	13:45 }	14:40 }	14:50 }	15:10 }	16:10 }
8:30	9:00	10:00	11:00	11:25	12:10	13:00	13:40	14:25	14:50	15:10	16:10	16:25
受付	きらめきタイム	提案授業①	提案授業②	基調提案	分科会Ⅰ 授業協議	昼食	分科会Ⅱ 県外提案 県内提案		開会行事	全体指導	講演	閉会行事

8. 分科会

No.	分科会名	分科会テーマ	担当県
1	体づくり運動 (体ほぐし)	全ての子どもが「やってみよう!」「できそう!」という思いを抱き、仲間と共に試行錯誤する活動を通して、心と体が関係し合っていることに気付くとともに、仲間と関わる楽しさを体験し、仲間のよさを認め合うことができる授業づくり	高知県
			香川県
2	器械・器具を使った運動遊び	全ての子どもが運動遊びに繰り返し取り組んだり、遊び方を選んだりすることを通して、様々な動きの感覚を身に付けたり、遊び方を工夫したり、これらを友達に伝えたりする楽しさを味わえる授業づくり	徳島県
			香川県
3	走・跳の運動遊び	全ての子どもが、友達と話し合いながら課題を見つけ、解決のために試行錯誤する中で、調子よく走ったり跳んだりする心地よさや競い合う楽しさに気付く授業づくり	愛媛県
			香川県
4	ゲーム	全ての子どもが課題解決に向けて、ボール操作やボールを持たないときの動き等を工夫しながら、仲間と協働して取り組むことを通して、運動に対する肯定的な思いを高め、体育科がめざす資質・能力を育むための授業づくり	岡山県
			香川県
5	体づくり運動 (多様な動き、体の動きを高める)	全ての子どもが現状を知り、スモールステップで構成された単元の中で仲間と関わり合いながら学習し、その成果を確認することを通して、みんなが気付き、考え、実践するための授業づくり	広島県
			香川県
6	器械運動	全ての子どもがマット運動の楽しさや喜びを実感するために、集団マットで仲間と関わり合うことを通して、個々の課題解決に向けて練習し、技の完成度を高めていく授業づくり	愛媛県
			香川県
7	陸上運動	全ての子どもが主体的、対話的に課題解決を図ることで、理想的な動きを獲得しながら記録を向上させ、友達と競走(争)する楽しさや記録に挑戦する喜びを感じられる授業づくり	鳥取県
			香川県
8	水 泳	全ての子どもが課題解決に向けて、練習方法や用具等を工夫しながら、仲間と協働して取り組むことを通して、運動に対する肯定的な思いを高め、体育科がめざす資質・能力を育むための授業づくり	徳島県
			香川県
9	ボール運動	全ての子どもが3つのつながりを通して、チームが強くなる(楽しくなる)ための課題を自分たちの力で見つけ、必要感のあるデータを活用しながら課題解決の仕方や練習方法を仲間と試行錯誤し、更なる向上を目指して学び続ける授業づくり	山口県
			香川県
10	表現運動	全ての子どもがなりたい姿を想像し、教師や環境、仲間と関わり合いながら表現することを通して、表したいイメージをよりよい動きにしようとする力を育む授業づくり	高知県
			香川県
11	保 健	全ての子どもが「自分ごと」として、健康課題の解決に必要な情報を自ら収集し、適切な意思決定や行動選択を行おうとする力を育む授業づくり	島根県
			香川県

9. 提案授業

1年生	器械・器具を使った運動遊び	2年生	体づくりの運動遊び
3年生	ゲーム(ゴール型)	4年生	表現運動
5年生	陸上運動	6年生	ボール運動(ネット型)

※保健領域のブースを設置いたします。

令和7年度『わたしたちの体育』教師用指導書デジタルコンテンツ一覧

『わたしたちの体育』では、令和5年度より、教師用指導書の二次元コードからデジタルコンテンツを提供しています。

この動画は、現職の教員が日々の研究・実践をもとに、運動の全体像（ゲームの様子、場の設定や工夫）、運動のポイント、指導のポイントなどをわかりやすく視覚的に理解できるようにするために作成したもので、児童も教員も『わたしたちの体育』をより有効に活用することができます。

令和7年度については、下記内容のコンテンツが閲覧できますので、ぜひ教師用指導書をご覧いただき、アクセスしてご活用ください。

低学年						
体づくりの運動遊び	体ほぐしの運動遊び	歩いたり走ったり	器械・器具を使っ た運動遊び	とびばこを使った 運動遊び	またぎのり・またぎ下り	
	いろいろな運動遊び	前まわしとび① 前まわしとび②		水遊び	とびのり・とび下り ワニ	
器械・器具を使っ た運動遊び	マットを使っ た運動遊び	活動① ゆりかご	ゲーム	ボールはこびおに	やってみよう ねことねずみ	
		活動① まえころがり			やってみよう 手つなぎおに	
		活動① うしろころがり			やってみよう しっぽとりおに	
		活動① 川とび			やってみよう ジグザクはこびおに	
		活動① まるまころがり			活動① 丸がた ボールはこびおに	
		活動① だるまころがり			活動② ボールはこびおに	
		活動① ウサギとび			やってみよう まねっこ	
		活動① カエルの足うち			やってみよう かがみっこ	
		活動① カエルのさか立ち			活動① その①	
		活動① くびとう立			活動① その②	
	活動① かべのぼりさか立ち	模範				
	活動① ブリッジ	たのしく おどろう！	手をたたいて 全体			
	てつぼうを使っ た運動遊び	ふとんほし				
		コウモリ下り				
		れんぞく足ぬきまわり				

中学年					
体づくり運動	体ほぐしの運動	用具を使って 遊ぶ	走・跳の運動	はばとび	活動① ふみ切り板
	動きをつくる・ 用具を使った運動	すわる・立つ（体のバランスをとる運動） 回す（用具を操作する運動） 運ぶ（用具を操作する運動） 大波小波			活動① とび箱 活動① ふみ切りゾーン
器械運動	マット運動	やってみよう ゆりかご	水泳運動	もぐる・浮く運動	活動① せうき
		やってみよう 川とび			活動① ポピンク
		活動① 前転			活動① やさしい泳ぎ（ばた足泳ぎ）回転
		活動① 後転			活動① やさしい泳ぎ（ばた足泳ぎ）手を かいて、こきゅうをしなから
		活動② 開きやく後転			活動① やさしい泳ぎ（ばた足泳ぎ）二人 で練習
	鉄ぼう運動	活動② そく方とう立回転	ゲーム	ポートボール	ゲームのイメージ
		わざの組み合わせ 例1			シュートゲーム
		わざの組み合わせ 例2			サークルゲーム
		わざの組み合わせ 例3			フロアバレーボール
		ひざかけふり上がり			運動のイメージ
	とび箱運動	かかえこみ前回り	表現運動	キャッチバレーボール	運動のイメージ
		転向前下り			からだで絵日記
		後方し持回転			活動① せんたくをしたよ（その1）
		前方し持回転			活動① せんたくをしたよ（その2）
		台上前転			活動① せんたくをしたよ（その3）
とび箱運動	開きやくとび	表現運動	リズムダンス	運動のイメージ	
	かかえこみとび			活動① 基本的なリズムの乗り方	
	ひざをのぼした台上前転・ しんしつ台上前転			活動① ゆれて	
	首はねとび			活動① こしをふって	
	頭はねとび			活動① 手をふって	
走・跳の運動	小型ハードル走	活動① だんボール箱	投の運動	ボール投げ	活動② 動きをそろえて
		活動① 輪とび			もっと速くに投げよう（ボールの軌跡）
		活動① シートとび			ボールのにぎり方

高学年						
体づくり運動	体ほぐしの運動	リズムに乗って	器械運動	とび箱運動	頭はねとび	
	やってみよう 前転	発展 くっしんとび				
器械運動	マット運動	やってみよう 後転	水泳運動	安全確保につながる運動	発展 前方くつわんとう立回転とび	
		活動① 開きやく後転			活動① 安全確保の運動	
		活動① 側方とう立回転			活動① 平泳ぎ	
		活動① 首はね起き			活動① ゆったりとした平泳ぎ	
		活動② とう立ブリッジ			ブレルボール	
		活動② 開きやく前転			ネット型	
		活動② しんしつ後転			ブレルボール（ルールの工夫①）	
		活動② ロンダート			ブレルボール（ルールの工夫②）	
		活動① 頭はね起き			はげしい動きの世界 （わたしたちの地球）	やってみよう
		発展 前方とう立回転			表現運動	祭りだ ワッショイ！
	発展 しんしつ前転	祭りばやし				
	発展 後転とう立	ししまい				
	後方支持回転	みこし				
	前方支持回転	ICT機器の活用例				
	とび箱運動	開きやくとび	投の運動	ボール投げ	フォークダンス	
台上前転		マイム・マイム				
首はねとび		コロブチカ				
かかえこみとび		グスタフス・スコール				
ひざをのぼした台上前転・ しんしつ台上前転		もっと速くに投げよう				

合計 130本 (うち、野線囲みが令和6年度作成
薄い網掛けが令和7年度作成)

令和8年度の『わたしたちの体育』教師用指導書にも、コンテンツを追加予定です。ぜひご活用ください。

中・四国小学校体育連盟歴代役員名簿（平成28年度～令和7年度）

年 度		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
当 番 県		島 根 県	香 川 県	岡 山 県	徳 島 県	広 島 県	
会 長		作野 宏喜	木村 彰伸	有森 貢	中江 英生	清水 剛	
理 事 長		古藤 忠男	前場 裕平	原 哲也	花森 誠二	大田 直樹	
最高顧問		成田十次郎	成田十次郎	成田十次郎	成田十次郎	成田十次郎	
顧 問		大内 博久	大内 博久	大内 博久	中山 龍興	中山 龍興	
		中山 龍興	中山 龍興	中山 龍興	横山喜一郎	横山喜一郎	
		横山喜一郎	横山喜一郎	横山喜一郎	葛目 英男	葛目 英男	
参 与					嵩原 彰	嵩原 彰	
		葛目 英男	葛目 英男	葛目 英男	清原 義之	清原 義之	
		嵩原 彰	嵩原 彰	嵩原 彰	長谷川誠一	長谷川誠一	
香 川 県		副 会 長	木村 彰伸	木村 彰伸	木村 彰伸	濱田 正人	
		常務理事	前場 裕平	前場 裕平	前場 裕平	前場 裕平	石賀 惇也
		専門委員	木田 英登	木田 英登	木田 英登	木田 英登	木田 英登
		専門委員	大西 美輪	大西 美輪	大西 美輪	大西 美輪	大西 美輪
		専門委員	山本 健太	山本 健太	山本 健太	山本 健太	山本 健太
徳 島 県		副 会 長	沖田 勝昭	熊野 敏彦	中江 英生	中江 英生	
		常務理事	川村 恭弘	川村 恭弘	花森 誠二	花森 誠二	東野 伸哉
		専門委員	月本 直樹	東野 伸哉	東野 伸哉	東野 伸哉	山花 悟朗
		専門委員	前田 浩史	前田 浩史	山花 悟朗	山花 悟朗	吉原 賢治
		専門委員	甘利 和美	川内 美希	川内 美希	川内 美希	川内 美希
高 知 県		副 会 長	田内 聡	田内 聡	田内 聡	島崎 雅彦	
		常務理事	内田 裕文	内田 裕文	内田 裕文	内田 裕文	平野 大輔
		専門委員	田所 潤子	田所 潤子	田所 潤子	二宮 健輔	二宮 健輔
		専門委員	大西 梓司	中村 仁也	寺石 圭作	寺石 圭作	田中 賢史
		専門委員	中野 浩史	中野 浩史	中野 浩史	戸梶明日香	戸梶明日香
愛 媛 県		副 会 長	乗松 秀樹	乗松 秀樹	松本 賢司	松本 賢司	
		常務理事	土井祥二郎	土井祥二郎	八塚 伝	八塚 伝	八塚 伝
		専門委員	土手 康之	高田 祥司	高田 祥司	高田 祥司	高田 祥司
		専門委員	八塚 伝	八塚 伝	二神 耕司	束村 英憲	束村 英憲
		専門委員	仙波 奈美	仙波 奈美	仙波 奈美	仙波 奈美	仙波 奈美
岡 山 県		副 会 長	荻野 克己	有森 貢	有森 貢	小川 泰永	
		常務理事	小林 紀彦	原 哲也	原 哲也	原 哲也	難波 淳志
		専門委員	辻田 和代	辻田 和代	辻田 和代	長田 敏彰	中西 一臣
		専門委員	西田 真悟	西田 真悟	西田 真悟	梅原 朋子	森下 賢
		専門委員	難波 淳志	難波 淳志	奥田 靖崇	西田 真悟	西田 真悟
島 根 県		副 会 長	作野 宏喜	長尾 憲道	富谷 衡	富谷 衡	
		常務理事	古藤 忠男	古藤 忠男	古藤 忠男	古藤 忠男	三島 康紀
		専門委員	団野 晶夫	団野 晶夫	柘植優太郎	柘植優太郎	中島 和彦
		専門委員	三浦 慶子	三浦 慶子	平賀 湖恵	平賀 湖恵	平賀 湖恵
		専門委員	郷原 秀文	郷原 秀文	郷原 秀文	郷原 秀文	郷原 秀文
広 島 県		副 会 長	林 信一郎	林 信一郎	林 信一郎	清水 剛	
		常務理事	小西 潤児	小西 潤児	西岡 宏	西岡 宏	大田 直樹
		専門委員	西岡 宏	西岡 宏	大田 直樹	大田 直樹	大田 直樹
		専門委員	大田 直樹	大田 直樹	須田 真二	須田 真二	須田 真二
		専門委員	角田 雄三	角田 雄三	角田 雄三	角田 雄三	角田 雄三
山 口 県		副 会 長	岡野富司雄	古谷 友伯	岡野富司雄	岡野富司雄	
		常務理事	菊川 和彦	菊川 和彦	柳井 沢郎	柳井 沢郎	有田 敏広
		専門委員	柳井 沢郎	田中 大輔	田中 歩	田中 歩	田中 歩
		専門委員	佐野さとみ	佐野さとみ	土井 美和	土井 美和	土井 美和
		専門委員	上田 雅純	上田 雅純	上田 雅純	石原 孝一	石原 孝一
鳥 取 県		副 会 長	山本 英世	長谷川誠一	長谷川誠一	米井 誠	
		常務理事	山本 正人	夏目 貴史	夏目 貴史	夏目 貴史	夏目 貴史
		専門委員	夏目 貴史	戸板 正哉	上川 秀人	上川 秀人	上川 秀人
		専門委員	好川 美香	好川 美香	好川 美香	山田 宏彰	山田 宏彰
		専門委員	門脇 康裕	内田 誠	内田 誠	西尾 友宏	西尾 友宏

年 度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
当 番 県	高 知 県	山 口 県	鳥 取 県	愛 媛 県	島 根 県	
会 長	山本 儀浩	西川 孝文	近藤 剛夫	山本 智啓	杉原 孝尚	
理 事 長	平野 大輔	佐々木智哉	夏目 貴史	越智 純	松崎 雅史	
最高顧問	成田十次郎	成田十次郎				
スーパーバイザー				日野 克博	日野 克博	
顧 問	中山 龍興	中山 龍興	中山 龍興	中山 龍興	清原 義之	
	横山喜一郎	横山喜一郎	嵩原 彰	清原 義之	梶野 雅義	
	葛目 英男	嵩原 彰	清原 義之	梶野 雅義		
	嵩原 彰					
参 与	清原 義之	清原 義之	長谷川誠一	長谷川誠一	長谷川誠一	
	長谷川誠一	長谷川誠一	梶野 雅義	島崎 雅彦	島崎 雅彦	
		梶野 雅義	島崎 雅彦	元木 啓之	元木 啓之	
		島崎 雅彦			河野 一則	
香 川 県	副 会 長	米村 博司	宮谷 恭彦	宮谷 恭彦	谷岡 直樹	谷岡 直樹
	常務理事	石賀 惇也	石賀 惇也	石賀 惇也	石賀 惇也	岸下 直起
	専門委員	木田 英登	藤井 康裕	藤井 康裕	藤井 康裕	西原 昂志
	専門委員	大西 美輪	大西 美輪	安岐美佐子	安岐美佐子	安岐美佐子
	専門委員	山本 健太	穴吹 哲郎	穴吹 哲郎	岸下 直起	穴吹 哲郎
徳 島 県	副 会 長	元木 啓之	元木 啓之	元木 啓之	寺井 孝文	寺井 孝文
	常務理事	東野 伸哉	東野 伸哉	山花 悟朗	山花 悟朗	山花 悟朗
	専門委員	山花 悟朗	山花 悟朗	松田 元宏	松田 元宏	松田 元宏
	専門委員	吉原 賢治	松田 元宏	布川 壯一	三木アカネ	三木アカネ
高 知 県	副 会 長	山本 儀浩	大塚 剛弘	大塚 剛弘	川上 直人	川上 直人
	常務理事	平野 大輔	二宮 健輔	二宮 健輔	二宮 健輔	二宮 健輔
	専門委員	二宮 健輔	横山 信吾	横山 信吾	横山 信吾	馬越 新
	専門委員	田中 賢史	田中 賢史	田中 賢史	田中 賢史	田中 賢史
	専門委員	戸梶明日香	永橋 京	森田 優里	森田 優里	森田 優里
愛 媛 県	副 会 長	中川 祐二	中川 祐二	山本 智啓	山本 智啓	山本 智啓
	常務理事	八塚 伝	八塚 伝	越智 純	越智 純	越智 純
	専門委員	束村 英憲	束村 英憲	束村 英憲	束村 英憲	束村 英憲
	専門委員	越智 純	越智 純	出水 順子	船田みどり	船田みどり
岡 山 県	専門委員	仙波 奈美	仙波 奈美	濱田 圭	濱田 圭	濱田 圭
	副 会 長	小川 泰永	那須 健二	那須 健二	鳥越有実子	鳥越有実子
	常務理事	松本 年永	松本 年永	松本 年永	松本 年永	長田 敏彰
	専門委員	中西 一臣	中西 一臣	中西 一臣	中西 一臣	村瀬 遼平
	専門委員	森下 賢	森下 賢	井関 哲朗	井関 哲朗	井関 哲朗
島 根 県	専門委員	西田 真悟	西田 真悟	西田 真悟	西田 真悟	西田 真悟
	副 会 長	矢田 誠司	持田 健司	川田 勝巳	杉原 孝尚	杉原 孝尚
	常務理事	三島 康紀	三島 康紀	三島 康紀	松崎 雅史	松崎 雅史
	専門委員	中島 和彦	中島 和彦	柘植優太郎	柘植優太郎	柘植優太郎
	専門委員	平賀 湖恵	平賀 湖恵	升谷 佳子	升谷 佳子	秋鹿 仁美
広 島 県	専門委員	郷原 秀文	郷原 秀文	渡部 凌	周藤 航平	周藤 航平
	副 会 長	清水 剛	清水 剛	清水 剛	岡崎 貴弘	岡崎 貴弘
	常務理事	古村 浩祐	古村 浩祐	落海 大輔	落海 大輔	落海 大輔
	専門委員	落海 大輔	落海 大輔	河野 吉信	河野 吉信	河野 吉信
	専門委員	須田 真二	須田 真二	宇和佑輝也	宇和佑輝也	宇和佑輝也
山 口 県	専門委員	高松 未来	高松 未来	高松 未来	高松 未来	高松 未来
	副 会 長	西川 孝文	西川 孝文	西川 孝文	西川 孝文	西川 孝文
	常務理事	有田 敏広	佐々木智哉	佐々木智哉	佐々木智哉	佐々木智哉
	専門委員	田中 歩	田中 歩	田中 歩	木田 雅大	田中 歩
	専門委員	土井 美和	土井 美和	土井 美和	隅 美和	中田 萌
鳥 取 県	専門委員	大賀 拓也	石原 孝一	石原 孝一	石原 孝一	石原 孝一
	副 会 長	中尾 善登	近藤 剛夫	近藤 剛夫	近藤 剛夫	横田 博昭
	常務理事	夏目 貴史	夏目 貴史	夏目 貴史	内田 誠	内田 誠
	専門委員	上川 秀人	上川 秀人	上川 秀人	荒川 貴洋	荒川 貴洋
	専門委員	山田 宏彰	山田 宏彰	山田 宏彰	山田 宏彰	小木 祐介
専門委員	西尾 友宏	西尾 友宏	西尾 友宏	西尾 友宏	西尾 友宏	

機関誌『中・四国の体育』のあゆみ

- | | |
|--------------------------------------|----------------------------------|
| 1号…昭和47年度 香川県(創刊号)
(第10回研究発表大会記念) | 28号…平成11年度 岡山県 |
| 2号…昭和48年度 岡山県 | 29号…平成12年度 徳島県 |
| 3号…昭和49年度 広島県 | 30号…平成13年度 広島県 |
| 4号…昭和50年度 高知県
(小体連発足20周年記念号) | 31号…平成14年度 高知県 |
| 5号…昭和51年度 鳥取県 | 32号…平成15年度 山口県 |
| 6号…昭和52年度 山口県 | 33号…平成16年度 広島県 |
| 7号…昭和53年度 島根県 | 34号…平成17年度 高知県
(小体連創立50周年記念号) |
| 8号…昭和54年度 愛媛県 | 35号…平成18年度 山口県 |
| 9号…昭和55年度 香川県 | 36号…平成19年度 鳥取県 |
| 10号…昭和56年度 岡山県 | 37号…平成20年度 愛媛県 |
| 11号…昭和57年度 徳島県 | 38号…平成21年度 島根県 |
| 12号…昭和58年度 広島県 | 39号…平成22年度 香川県 |
| 13号…昭和59年度 高知県 | 40号…平成23年度 岡山県 |
| 14号…昭和60年度 山口県
(小体連創立30周年記念号) | 41号…平成24年度 徳島県 |
| 15号…昭和61年度 鳥取県 | 42号…平成25年度 広島県 |
| 16号…昭和62年度 愛媛県 | 43号…平成26年度 高知県 |
| 17号…昭和63年度 島根県 | 44号…平成27年度 山口県
(小体連創立60周年記念号) |
| 18号…平成元年度 香川県 | 45号…平成28年度 鳥取県 |
| 19号…平成2年度 岡山県 | 46号…平成29年度 愛媛県 |
| 20号…平成3年度 徳島県 | 47号…平成30年度 島根県 |
| 21号…平成4年度 広島県 | 48号…令和元年度 香川県 |
| 22号…平成5年度 高知県 | 49号…令和2年度 岡山県 |
| 23号…平成6年度 山口県 | 50号…令和3年度 徳島県 |
| 24号…平成7年度 鳥取県
(小体連創立40周年記念号) | 51号…令和4年度 広島県 |
| 25号…平成8年度 愛媛県 | 52号…令和5年度 高知県 |
| 26号…平成9年度 島根県 | 53号…令和6年度 山口県 |
| 27号…平成10年度 香川県 | 54号…令和7年度 鳥取県
(小体連創立70周年記念号) |

編集後記

今年、中・四国小学校体育連盟は創立70周年を迎えました。これまで諸先輩方が築き上げてこられた中・四国小学校体育連盟の伝統を引き継ぎながら、さらに新しい視点を持ち、体育科学習の研究に取り組んでいきたいと考えています。

『中・四国の体育』第54号では、中・四国9県の現場の先生方の協力を得て編集している『わたしたちの体育』『表現運動CD』を活用した実践事例に加え、中・四国小学校体育連盟の事業を中心となって推進されてきた先生方からお寄せいただいた思いも掲載させていただきました。是非、ご一読いただき、今後の体育科学習の充実にご活用いただければ幸いです。

さて、第63回中・四国小学校体育研究大会(島根大会)においては、神々が集う神在月に「学ぶ機会の保障」「教材化と系統立てた指導」「課題解決力の育成」「汎用能力の高まり」を大切にされた授業を公開していただきました。次期学習指導要領に向けた提案性の高い内容に、参集された先生方が熱心に学ばれる姿が印象的でした。素晴らしい大会を開催してくださいました島根県の先生方には感謝申し上げます。

最後になりましたが、『中・四国の体育』第54号の発行に当たりまして、執筆をお願いした先生方、各県において取りまとめをしていただいた先生方、ご多用の中ご協力いただき、誠にありがとうございました。

中・四国の体育 第54号(令和7年度)

中・四国小学校体育連盟

発行/令和8年2月

印刷/株式会社ムレコミュニケーションズ



中・四国小学校体育連盟編集
『わたしたちの体育』・『表現運動CD』の活用実践事例集

中・四国小学校体育連盟

<https://www.chushikoku-syotairen.jp>